



TITLE:

基研研究会『膜の物理学』プログラム

AUTHOR(S):

CITATION:

基研研究会『膜の物理学』プログラム. 物性研究 1997, 68(3): 251-253

ISSUE DATE:

1997-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/96076>

RIGHT:

研究会報告

基研研究会『膜の物理学』プログラム

=== 1996年7月29日～31日(於：京大基礎物理学研究所) ===

(1997年2月19日受理)

【1日目(29日)】

13:00～13:20 開会の挨拶(研究会の趣旨) 末崎 幸生

13:20～14:20 招待講演(60分)

(1)『膜の物理学』

好村滋行(九工大・情報工)

14:20～14:40 《休憩》

14:40～15:40 講演(30分)×2

(2)『脂質膜の変形』

美島清(昭和大・物理)

(3)『リン脂質膜のリップル構造について』

佐藤幸一(慈恵医大・物理)

15:40～16:10 《休憩》

16:10～17:40 講演(30分)×3

(4)『アゾベンゼン-ラングミュア膜の二次元スメクティックC液晶(ビデオ)』

多辺由佳(電総研・超分子)

(5)『軟X線吸収分光法で見た長鎖アルカンの表面秩序形成』

大内幸雄(名大・理)

(6)『棒状分子の吸着の理論』

松山明彦(三重大・工)

【2日目(30日)】

9:00～10:00 講演(30分)×2

(7)『高分子膜の折り畳み転移と格子模型』

梶永泰正(東大・理)

(8)『ふっ素系両親媒性分子が構築する二分子膜構造とベシクル-繊維転移』

今榮東洋子(名大・理)

10:00～10:30 《休憩》

10:30～11:30 招待講演(60分)

(9)『リボゾーム形態のダイナミクス-実験的アプローチ』

宝谷紘一(名大・理)

11:30 ~ 12:00 講演 (30 分) × 1

(10)『微小管によるリポソームの変形の力学』

梅田民樹 (神戸商船大・機関システム工学)

12:00 ~ 13:30 《昼食、休憩》

13:30 ~ 14:30 招待講演 (60 分)

(11)『脂質 2 分子膜 —物理学・生物・化学の接点—』

砂本順三 (京大・工)

14:30 ~ 15:00 《休憩》

15:00 ~ 16:00 講演 (30 分) × 2

(12)『油／水界面に発生する振動とその伝播 (ビデオ)』

川久保達之、小林貴 (桐蔭横浜大・工)

(13)『展開単分子膜中に形成される二次元分子ナノクラスターの形成機構と構造』

加藤貞二 (宇都宮大・工)

16:00 ~ 18:00 ポスターセッション

【3 日目 (31 日)】

9:00 ~ 10:30 講演 (30 分) × 3

(14)『界面活性剤ゲル相の虹色発色現象と相分離』

辻井薫 (花王研究所)

(15)『逆ミセル中の AOT の動的構造と塩基触媒反応の相関』

岡林博文、吉野明広 (名工大・工)

(16)『局所結合性のアプローチによるマイクロエマルジョンのトポロジカル相転移』

上野陽太郎 (東工大・理)

10:30 ~ 11:00 《休憩》

11:00 ~ 12:00 招待講演 (60 分)

(17)『両親媒性分子系の相平衡と自己組織体形成』

国枝博信 (横浜国大・物質工)

12:00 ~ 13:30 《昼食、休憩》

13:30 ~ 15:00 講演 (30 分) × 3

(18)『合成糖脂質・水系の相挙動 —糖鎖の立体構造と Spontaneous Curvature —』

羽藤正勝 (物質工学工業技術研・高分子物理)

(19)『ラメラ・スポンジ・ミセル相間の相変化様式』

田中肇 (東大・生産技術研)

(20)『非イオン性界面活性剤／水系における Cubic Phase の構造ゆらぎ』

今井正幸 (東大・物性研)

15:00 ~ 15:15 閉会、お知らせ

【ポスターセッション詳細】

- (P1) 『リン脂質単層膜ベシクルのゲルー液晶相転移の炭化水素鎖長依存性』
八尾晴彦 (東工大・理)
- (P2) 『固液界面における有機分子の自発的集合とその動的振舞』
日比野政裕 (名大・工)
- (P3) 『異方性粒子による液晶相転移』
青木圭子 (静岡大・工)
- (P4) 『Helfrich 自発曲率モデルに対する解析解－ Delaunay 表面－』
内藤裕義 (大阪府立大)、欧陽鐘燦 (中国科学院)
- (P5) 『膜のサドル曲げ弾性の理論』
末崎幸生 (佐賀医大・物理)
- (P6) 『麻酔薬による膜の異常相転移の固溶体理論』
一ノ瀬 浩幸、竹生 政資、末崎 幸生 (佐賀医大・物理)
- (P7) 『2成分膜の膜上相分離と膜変形のダイナミクス』
谷口貴志 (京大・理)
- (P8) 『有限温度におけるリボソームの形状に関するシミュレーション』
森河良太 (東京薬科大・生命科)、齋藤幸夫、日向裕幸 (慶大・理工)
- (P9) 『高分子膜のメカニカルランプリング転移』
守真太郎 (東大・理)
- (P10) 『展開単分子膜の熱処理による膜中への水分子の取り込みに関する研究』
加藤貞二 (宇都宮大・工)
- (P11) 『脂質二分子膜における準チャンネル型イオン輸送の光制御』
田中求 (京大・工)
- (P12) 『脂質二分子膜界面の動的応答性』
松浦弘智、吉川研一 (名大院・人間情報)
- (P13) 『リボソーム aggregation-disaggregation 前転移温度の
カルシウムイオン濃度依存性曲線を説明する理論モデル系の構築』
永井喜則 (国士舘大)、荻原利彦 (麻布大)
- (P14) 『LB 膜の摺動シミュレーション』
小池麻子 (日立製作所・日立研)
- (P15) 『DCANPLB 膜の極性構造』
梶川浩太郎 (名大・理)
- (P16) 『マイクロエマルジョンのレオロジー』
樹神弘也 (神戸大院・自然科学)
- (P17) 『外場下におけるリोटロピック液晶の動的相図』
山本潤 (東大・生産技術研)
- (P18) 『アミノキッド系界面活性剤の構造相転移』
寺田弥生 (九大・理)
- (P19) 『両親媒子系マイクロエマルジョンからラメラ相への一次相転移』
好村滋洋 (広大・総合科学)